

## 今週の見頃写真

9月16日編集

### ○風景

#### ○有峰湖の濁水が前進

有峰湖の濁水がこの一週間でさらに進み、宝来島と陸続きになりました。9月15日（火）この希少な風景を撮影しました。



宝来島と陸続きの状態を調査する大井主任指導員



宝来島と陸続きになった一風景



宝来島と陸続きになった一風景



宝来島と陸続きになった一風景



宝来島と陸続きになった一風景



枯れた立木が林立している摩訶不思議な風景



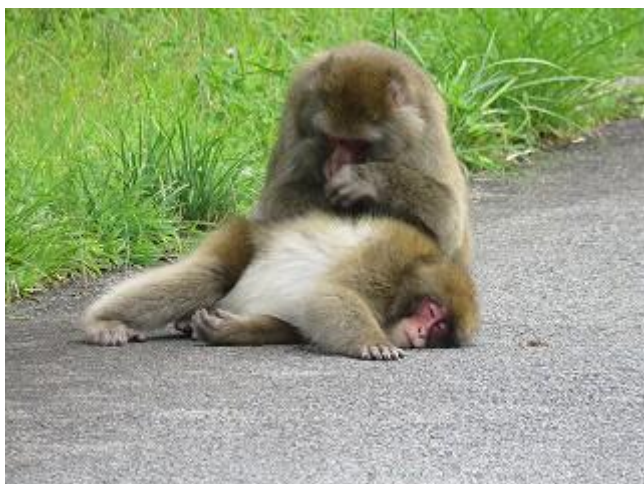
渇水状態となり露出した宝来島

## ○動物編

### ○ニホンザル

9月9日（水）、この日も午前10時頃から、猪根平自由広場（芝生広場）にニホンザルの群れがやってきました。滞在時間は一時間に及びました。

大半は、食事に費やしていました。マメ科のシロツメクサやアカツメクサの他、イネ科の帰化植物・シマスズメノヒエの成熟した種を手でしごいて捕食していました。この間、毛繕いするものもいました。毛繕いしているときはリラックスしています。一方的でなく交互に毛繕いしているのが印象的でした。時々、オオイタドリの柔らかし葉も捕食していました。この日はリーダーもゆっくり食事していました。一方、9月12日（土）、夕方4時、折立平で観察したニホンザルの群れは、木に登り、ヤマハンノキの葉やヤマハンノキ、ミズナラ、イヌコリヤナギに絡みついたヤマブドウの実などを捕食していました。場所（生息環境）による食料に対する順応性・適応性、行動範囲等についても観察を継続していきます。



毛繕い中のニホンザル（自由広場にて9/9撮影）



毛繕い中のニホンザル（自由広場にて9/9撮影）



毛繕い中のニホンザル（自由広場にて9/9撮影）



食事中のリーダー（自由広場にて9/9撮影）



食事中的リーダー（自由広場にて9/9撮影）



食事中的の様子（自由広場にて9/9撮影）



食事中的リーダー（自由広場にて9/9撮影）



捕食していたシマスズメノヒエ（イネ科）（9/9撮影）

### ○昆虫編

### ○オニヤンマ（オニヤンマ科）

日本最大のトンボとして知られています。西岸線の道路沿いでススキの枝で静止中の♂個体を撮影しました。緑色の複眼が印象的です。近くの沢とこの道とを何回も往復していました。この一帯が縄張り、生息域なののでしょうか？



毛繕い中のニホンザル（自由広場にて9/9撮影）

うっとりしていますね



ススキの枝で静止中のオニヤンマ♂

### ○アサギマダラ（タテハチョウ科）再登場！

6月上旬から有峰でも渡りをする蝶・アサギマダラが出現し始めました。夏が続いた8月、訪花植物のヒヨドリバナ（キク科）の花径が枯れたこともあり、その雄姿を見る機会がめっきり減っていました。9月8日以降の秋雨前線停滞を境に気温が低下したためか、再びアサギマダラが有峰に出現し始めたことを来館者からも情報提供戴いていた矢先の9月12日夕方4時、冷た谷キャンプ場からの帰路、ヒヨドリバナに訪花・吸蜜中のアサギマダラに再会しました。捕獲し、マーキング後、放蝶しました。浅黄色の雄姿に魅了されるのは小職だけでしょうか？

7月に一度草刈りされた西岸線の道路沿いで再度ヒヨドリバナ（キク科）が伸長し、開花し始めていました。ヒヨドリバナ（キク科）は、アサギマダラの代表的な訪花植物の一つです。この植物の蜜には性ホルモンの原料になるピロリジンアルカロイドが含まれていることが知られています。この性ホルモンは、さらに、脳や中枢神経に作用して生体アミン類という行動を活性化させる物質の量を増やす役目も果たし、配偶（交尾）行動や長距離の旅への挑戦にも役立つようです。

さて、アサギマダラが渡りをする最大の理由は「温度」、21℃前後を好み、暑さ寒さに弱いため、春は暑さを回避するため北上、秋は気温の低下に伴い南下することが知られています。

8月中、猪根山のブナ林の中をゆっくりと飛翔する姿を観察しています。また、ヒヨドリバナの開花前線が上昇するのに乗じ、亜高山帯に移動したのでしょうか。確かに8月でも折立より標高の高い場所でヒヨドリバナが開花していることを確認していますし、薬師岳から下山してくる登山客からアサギマダラを見たとい情報を戴いています。

長距離移動に備えて、この時期希少なヒヨドリバナに訪花しているアサギマダラ♂を観察できたことはラッキーでした。世代を超えて受け継がれるアサギマダラの渡りの本能、アキアカネのように秋雨前線が渡りの刺激・サインとなるのでしょうか？アサギマダラの渡りは神秘的です。

9月14日（月）、富山県自然博物館ねいの里でアサギマダラ調査グループの代表を務める藤條好夫氏が、有峰におけるアサギマダラの調査のため、ビジターセンターに来館、情報交換を行いました。この日、藤條

氏は、小口川線の祐延ダム周辺から、東谷線を調査し、アサギマダラの新鮮個体を多数発見、このうち50頭以上を捕獲し、マーキングを実施、放蝶したことを報告戴きました。翌日も長谷川覚さん他3名の同じ調査員の方々が、アサギマダラ調査の途中でビジターセンターに来館しました。我々森林文化村の職員もアサギマダラのマーキングに協力しています。今後も有峰におけるアサギマダラの生態観察、マーキングにもチャレンジしていこうと考えています。



ヒヨドリバナで吸蜜中のアサギマダラ♂(9/12撮影)



ヒヨドリバナで吸蜜中のアサギマダラ♂(9/12撮影)



ヒヨドリバナで吸蜜中のアサギマダラ♂(9/12撮影)



ヒヨドリバナで吸蜜中のアサギマダラ♂(9/12撮影)



マーキング済みのアサギマダラの♂ (9/13撮影)

その後直ぐに放蝶しました



富山アサギマダラ調査グループ代表藤條好夫氏 (9/14撮影)